

機関番号：82512

研究種目：基盤研究 C

研究期間：2007～2010

課題番号：19519003

研究課題名（和文） 台頭するミャンマー華僑・華人実業家の基礎研究

研究課題名（英文） The Basic Research on New Myanmar-Chinese Entrepreneurs

研究代表者 中西 嘉宏

（日本貿易振興機構・アジア経済研究所・研究員）

研究者番号：80452366

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は以下の 2 点である。第 1 に、1962 年の軍事政権成立後のミャンマーにおいて、華僑・華人実業家は一貫して周辺化され、現在、経済的には自律化が進んでいるものの、それを政治的権力に転化することができていないことがわかった。この知見を盛り込み、2009 年に単著『軍政ビルマの権力構造』を発表した。②他の東南アジア諸国同様、ビルマでも華僑・華人社会の歴史は優に 100 年を越えるが、関連資料が乏しく全く研究が進んでいない。そこでヤンゴンにある緬甸華僑図書館から全関連資料の複写を行って電子化した。近く公開を予定している。

研究成果の概要（英文）：This project contains following two results. Firstly, I found that Chinese entrepreneurs had been politically marginalized since 1962, although they were active in business before the 1962 coup d'état. This marginalization had been deeply analyzed in my book published in 2009, "Gunsei Biruma no Kenryoku Kozo". The second point is that I had collected and scanned major original documents stored in the Myanmar Chinese Library (緬甸華僑図書館) in Yangon. I will make them open to the public through internet soon. They will be useful for future research development, because few studies on Chinese society in Myanmar have been provided so far.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
19 年度	900,000	270,000	1170,000
20 年度	800,000	240,000	1040,000
21 年度	800,000	240,000	1040,000
22 年度	400,000	120,000	520,000
年度			
総計	2900,000	870,000	3700,000

研究分野：ミャンマー地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：ミャンマー、華僑、華人、実業家

1. 研究開始当初の背景

元来、東南アジアは中国の影響を受けてきた。それは東南アジアすべての国に華僑や華人と呼ばれる人たちがコミュニティをつくって暮らしていることからわかる。昨今、

中国の台頭によって東アジアと東南アジアの地域秩序に変化が起き、それは各国の国内政治経済へも影響を与えている。この影響のうち、ミャンマーに起きている変化は興味深い。ミャンマー政治経済は学術的にも一般的にも民主化をめぐる論じられることが多

かった。また、経済は自由経済体制への移行の最中にある国としてマクロに論じられることが多かったように思われる。そうした研究が見逃してきた点のひとつは、1990年代以降に、民間経済部門の発展と、隣国である中国の経済成長とが結びつき、ミャンマー国内に多くの華僑・華人実業家が台頭していることである。ミャンマーにも華僑・華人が主に19世紀後半から暮らしており、彼らによる経済活動が活発であることも知られてきたが、具体的に、彼らがどういった来歴を持ち、これまでどのように暮らし、どのような事業を営み、政治的にいかに自身の安全保障をはかってきたのか、といったような点はまったくと言っていいほど知られていない。今後のミャンマー政治経済を考える上で、彼らの役割は極めて大きく、華僑・華人実業の台頭とその背景を探る研究は不可欠と言えるだろう。

2. 研究の目的

本研究はミャンマーにおける華僑・華人実業家の政治経済的影響力の背景を、社会経済史的考察と、民間企業経営の考察などを通じて検討し、ひとつにビルマ政治経済史のなかに、もうひとつに中国台頭後の東南アジアの変化のなかに、ミャンマー華僑・華人の変化を位置づけようとするものである。

3. 研究の方法

課題名にあるように、本研究は基礎研究である。というのも、ミャンマーにおける華僑・華人の実態はまったくとよいほどわかっていない。先行研究についても、Bertil Lintner のビルマ共産党に関する研究の一部に登場したり、修士論文がいくつかあったりする程度である。そこで、さまざまな方法で研究対象にアプローチすることを試みた。具体的には以下の通りである。

(1) 人脈の構築

華僑・華人に限らず、ビルマの実業家たちはしばしば政府の介入にさらされるために、概して警戒心が強い。情報を得るには、地道な人脈形成が必要となる。そこで、ヤンゴンJETRO事務所の協力を得て、2008年に緬甸華商商会を訪問し、幹部への聞き取りを行った。2009年年始にはヤンゴンで開催された同商会の100周年記念式典に出席した。こうした作業は、すぐに成果が得られるものではないが、今後の調査のために有用と言えるだろう。

(2) 企業調査

現地の調査会社が行っている輸出入トップ

100社へのアンケート調査に動向し、経営者や所有者の民族、企業間関係等に関してインタビューを実施した。ミャンマーでは企業情報を公開する文化がないため、調査には困難を伴ったものの、約100社に関するデータを手に入れた。

(3) フィールドワーク

ヤンゴン、マンダレー、ラショウ、モンユワ、モーラマイン、ミッチーナなどでフィールドワークを行い、現地の研究者や華僑・華人などから情報収集を行った。例えば、2009年にはマンダレー最大規模の中国語学校で中国語学習熱の実態などについて直接視察する機会を得た。また、ミッチーナでは二輪車の貿易商や木材会社、中国人学校を訪れて、国境地帯の社会経済への中国の影響について調査を行った。

(4) 資料収集

ミャンマーの華僑・華人に関する社会経済史を進めるべく、ヤンゴンおよびマンダレーで歴史資料の調査を行ったところ、ヤンゴン市街に緬甸華僑図書館が存在することが判明した。この図書館には中国語（普通語）で書かれてヤンゴンで発行されたかつての文献や非売品の記念本などが所蔵されていた。マンダレーには同種の図書館は存在しないということだった。そこで、館長の許可を得て、同図書館の関係資料約60冊をすべて複製した。

4. 研究成果

(1) 権力構造のなかの華僑・華人

東南アジア諸国における華僑・華人の状況については、同化の程度という点について言えば、大きく言って現地社会に同化したタイとフィリピンのケースと、少数者に留まったインドネシアのケースに分けることができるだろう。ミャンマーは中国と直接国境を接していながら、インドネシアに近く、同化の程度はそれほど高くない。それは、市民権の点で、植民地化後に移住した中国系、インド系市民には国民ではなく、準国民としての証明書が発行されるだけであることからわかるだろう。しかし、インドネシアと異なるのは政治との関わりである。インドネシアでは特に1965年以降、軍事政権と華僑・華人の実業家たちは政治力と経済力を交換する関係にあった。華僑・華人の実業家たちは「権力なきブルジョアジー」であった。他方、ミャンマーの軍事政権は1962年から社会主義化を試みたため、華僑・華人実業家たちの経済力は失われる。さらに、中国本土の文化大革命の影響で政府からの弾圧が加わり、少な

くない人々が台湾、香港など海外に脱出することになった。華語学校が廃止されるなど文化的な制限も加えられた。この経済エリートと政治エリートとの切り離し、さらに政治エリートのなかでも国軍将校団の台頭に注目してミャンマーの権力構造について分析したのが拙著『軍政ビルマの権力構造：ネー・ウィン体制下の国家と軍隊、1962-1988』である。本書で筆者は、1962年から始まる「革命」のもとで将校団中心の権力構造がいかに形成されていったのかを明らかにした。その過程では、1950年代までの政治・経済エリートの凋落が起こっており、華僑・華人実業家たちも経済活動の停滞を余儀なくされた。

(2) 緬甸華僑図書館の資料収集

ミャンマーにおける華僑・華人実業家および彼らを再生産してきた華人社会については研究がほとんど進んでいない状態である。というのも、資料的な制約が多く、また、経済活動の情報にも限界があるからである。そのため、本研究の課題には、上述のように人脈の形成と資料の発掘が含まれていた。そのうち、緬甸華僑図書館の資料は貴重である。収集後、PDF化し、資料リストの作成を行った。そのうち、主要な資料の日本語訳は以下のとおりである。

- ・ミャンマー華商商会会務報告
- ・ミャンマー福建同郷総会 145 周年会誌
- ・ミャンマー華僑団体潮州會館新會館落成記念誌
- ・ミャンマー60 年間滞在記(1022-1982)
- ・ミャンマーマンダレー福慶宮福建同郷会石碑と歴史記録
- ・ヤンゴン中華学校 50 周年記念誌(1903-1952)
- ・ミャンマー華僑興商總會 40 周年記念誌(1911-1951)
- ・ミャンマー華僑安溪會館 42 周年記念誌
- ・ミャンマーヤンゴン岡州會館職員會員名簿
- ・ミャンマーヤンゴン永懷工會會員名簿
- ・ミャンマーヤンゴン徳星別荘會員名簿
- ・ミャンマー粵僑會館立案者名簿
- ・ミャンマーヤンゴン魯城行職員名簿
- ・ミャンマーマンダレー福慶宮福建同郷会石碑と歴史記録
- ・ミャンマーヤンゴン李家館職員名簿
- ・ミャンマーヤンゴン永華館館(会)員・職員名簿
- ・ミャンマーヤンゴン和義館規則(本館印鑑付録)
- ・ミャンマーヤンゴン梅氏書室職員名簿
- ・ミャンマーヤンゴン和義館職員名簿
- ・ヤンゴン蘆山家族會規則
- ・ヤンゴン大学華僑学生会記念誌(1962-1963)

なかでも、『ミャンマー華僑大事録(1951-1959)』は、ヤンゴンで長く華人学校の教員と華商商会の秘書を務めた陳孝奇氏による詳細な日誌である。この資料の重要性に鑑み、日誌の内容をエクセルに入力してデータベース化する作業を行った。20 世紀初頭から1950 年代までのものについては完成したので、それに今後、英訳とビルマ史の概要を加えて、資料目録とともにアジア経済研究所上での公開を目指す。

(3) 今後の課題

① 収集資料にもとづく社会経済史の分析

2007 年の研究開始後、ミャンマーの政情が悪化し、また 20 年ぶりの選挙など政治的イベントが続いたため、調査は決して順調なものではなかった。そのなかで緬甸華僑図書館の資料を発見した意義は大きい。この資料群を用いて、20 世紀初頭からミャンマーの華僑・華人社会がどのように変化してきたのかを考察する必要があるだろう。それは、現在の中国台頭によって、ミャンマーで華僑・華人実業家の存在感が高まっていることを考えても、研究上の意義は大きい。今後、中国語資料を扱える研究者とともに共同研究を実施する予定である。

② 企業経営に関する調査の継続

本研究のなかでは貿易企業へのインタビュー調査を実施した。ミャンマーの企業は情報公開への壁が極めて厚いために、調査は難航を極めたものの、実業家に華僑が非常に多いことと、利率の問題で銀行からの融資を受けず、信頼できる国内外のパートナーから資金の提供を受けていることがわかった。そこには国境を越えた華僑のネットワークが存在するものと考えられるが、その点については十分な観察をすることができなかった。今後、ミャンマー以外の地域、例えば香港、シンガポール、昆明などでビルマに投資をしている実業家たちから情報を得ることが重要な課題になるだろう。2000 年代に中国の台頭が顕著になるまで眠っていた、ミャンマーの華僑・華人ネットワークが重要な役割を果たしたものと予想される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ・中西嘉宏 「転機をむかえる国軍」『アジア研ワールドトレンド』14(8), 2008, p. 10-13, 査読無し

・中西嘉宏 ” Book Review: Robert Taylor, The State in Myanmar” Pacific Affairs, Vol. 83 (3), pp. 643-644, 2010, 査読無し

[学会発表] (計 11 件)

Nakanishi Yoshihiro, “Winner Takes All. Political Elites in the Ne Win Regime, 1962-1988” 2010 International Burma Studies Conference, Burma in the Era of Globalization,” Marseille, France, July 6th-9th, 2010

・中西嘉宏 「失敗だったのか、成功だったのか?—ミャンマーにおける党国家建設と国軍の変容」東南アジア学会第 81 回研究大会, 2009 年 6 月 7 日, 京都大学稲盛記念館

・中西嘉宏 「ミャンマーにおける国軍主導の『民主化』」日本比較政治学会全国大会, 2009 年 6 月 28 日, 京都大学吉田キャンパス・

・中西嘉宏 「ミャンマーから遠く離れて—東南アジアにおける難民と非伝統的安全保障」ワークショップ「アジアにおける非伝統的安全保障問題」2010 年 3 月 19 日, 政策研究大学院大学

・Yoshihiro Nakanishi “Behind Insecurity: Structural Change of the Military Politics by the 8888 Movement in Myanmar,” International Workshop On “Security and Violence in Contemporary Southeast Asia” Organized by Mekong Research Unit, Institute of Asian Studies. (2007July18). Mae Sai, Thailand

中西嘉宏 「将校たちの 1988 年」ビルマ研究会全国大会, 2007 年 5 月 12 日, 東北学院大学

中西嘉宏 「なぜミャンマーの軍政はこれほど長く続くのか」東洋大学アジア文化研究所第 2 回研究大集会, 2008 年 1 月 25 日, 東洋大学白山キャンパス

中西嘉宏 「ミャンマー長期軍政下における国軍人事と政治対立のパターン」東南アジア学会関西地区例会, 2008 年 3 月 1 日, 京都大学

中西嘉宏 「ネー・ウィン体制期ビルマにおける政軍関係(1962-1988)」アジア地域形成研究会、政策研究大学院大学、2007 年 3 月

中西嘉宏 「将校たちの 1988 年—ビルマ長期軍政の連続と断絶をめぐる—」ビルマ研究会、東北学院大学、2007 年 5 月 12 日

中西嘉宏 「ビルマ式社会主義下の軍と政治：現在と軍政との比較から」国立民族博物館研究会「ビルマ式社会主義(1962-88)に見る近代化：その経験と現在」, 国立民族学博物館, 2007 年 11 月 10 日

[図書] (計 1 件)

中西嘉宏 『軍政ビルマの権力構造—ネー・ウィン体制下の国家と軍隊 1962-1988』京都大学学術出版会 (2009)

[産業財産権]

○出願状況 (計 1 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 中西 嘉宏
(日本貿易振興機構・アジア経済研究所・研究員)

研究者番号：80452366

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：